

## 「クラブを超えた活動」



国際ロータリー第2660地区

ガバナー **横山 守雄**

今年の2月に開かれましたRI第2750地区(東京)の地区大会に参加いたしました。新藤信之ガバナーは地区現況報告の中で、各クラブの会員数が減少し、会員数40名以下の小規模クラブが年々増えています。これからの時代は小規模クラブの活動がロータリーの主流になるでしょう。そうなる「クラブを超えた活動」、即ち、インタークラブ間の合同活動が重要になって行きます。今後のクラブ活動のあり方として、この様な考え方を取入れることが必要ではないでしょうかと提唱されました。

日本のロータリークラブ全体の傾向として、クラブ規模が年々小さくなっていますが、当地区においても現在86クラブ中、47クラブ(55%)が40名以下の会員で構成されています。現実的な問題として、地区協議会や各種のクラブ委員長会議が開かれますと、「ウチのクラブには担当者がいませんで欠席です」という通知があります。「はい、そうですか。仕方ありませんね」ではクラブ活動の一層の低下、ひいてはクラブの衰退に繋がりがねません。

クラブの会員数は、会員同志がお互いに親しくなるという観点から、そしてクラブの財政面、活動面から見ても、望ましいクラブ規模は50~

60名だと言われておりますが、当地区ではこの範疇に入るクラブは今では限られています。小規模クラブの活性化に「クラブを超えた活動」がいろいろな面で役立っています。例えば、多くのWCSプロジェクトが数クラブ合同で実施されています。社会奉仕プロジェクトも合同で行なっているクラブが幾つかあります。親睦活動についてはインタークラブ間のゴルフ会や野球、サッカー大会などがあります。これらは「クラブを超えた親睦活動」です。

その最も分かりやすい活動が組単位で開かれているIMです。親戚付き合いが出来る親しみのあるIM内のクラブは「クラブを超えた活動」に取組めるベストパートナーと言えます。ガバナー公式訪問の際に、数クラブによる会長・幹事懇談会が開かれるケースが幾つかあります。そのあと合同例会に参加された皆さんが、「お互いのクラブの活動目標や課題への取組み方がよく分かる機会を得てよかった、他クラブの皆さんと一層親しくなる機会を持ってよかった、来年も合同でやりましょう」と云う声が数多くありました。この様なことから見ても、「クラブを超えた活動」でクラブ活動の更なる活性化が図られるのではないかと思います。